

2018.9.30 年間第26主日

互いに平和に過ごしなさい

マルコによる福音 9:38-50

(そのとき、)ヨハネがイエスに言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました。」イエスは言われた。「やめさせてはならない。わたしの名を使って奇跡を行い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい。わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。はっきり言うておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。

わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまづかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい。もし片方の手があなたをつまづかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。もし片方の足があなたをつまづかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両足がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、片足になっても命にあずかる方がよい。地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。もし片方の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出しなさい。両方の目がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、一つの目になっても神の国に入る方がよい。地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。

人は皆、火で塩味を付けられる。塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。」

説教

きょうの福音はおおきく二つの話にわけることができます。一つ目が「逆らわないものは味方」「一杯の水をくれる者」の話。二つ目が「躓かせる者」（石臼のはなし）「各自の躓き」（手足切り落としのはなし）、そのまとめとして「自分自身の中の塩を持って」となっています。

一つ目のはなしは「党派問題」です。

先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました。(9:38)

ヨハネはイエスにこう訴えています。ヨハネの言い分は先生の名前をかたる者がいる、彼らは偽物だから先生なんとかしてください、わたしたちの言うことは聞かないのです、というところでしょう。イエスはそのままにしておきなさいとヨハネの言い分を拒否します。宗教に限らず組織が発展していくとかならず内輪もめが始まります。

やめさせてはならない。わたしの名を使って奇跡を行い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい。わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。(9:39-40)

このあとすぐに「一杯の水」のはなしとなります。誰にしろ（仮に敵対するグループの者であったとしても）水をくれる人は報いをうける＝むくわれるとイエスははっきり言明します。

はっきり言うておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。(9:41)

二つ目は「躓き」問題です。

躓きとはキリスト教用語で信仰を阻害する行為、平たく言えばじゃまをすることをいいます。小さなクリスチャンを躓かせる者は海に沈められたほうがまし、自分のなかに躓かせるなにかがあるならそれらを切り落としてしまえ、と厳しいことばが続きます。一つ目の問題に比べるとずいぶん激しい内容になっています。身内には厳しい（他人にやさしく、身内にきびしい？）という倫理をいつているようでもあります。ただの倫理観で解釈するとイエス

さまにしてはずいぶんとアンチョコな感じもするので、じつのところは違うのだらうと推測します。でもわたしには今のところわかりません。

きょうの福音はひとつ一つをバラバラに受け止めたほうがいいように思います。内容が関連しているようですが、無理に解釈するとただただ「しょっぱく」なるように思います。党派性に関しては寛容であれ、信仰阻害については自他ともに厳しく、そして自分のなかに塩をもち互いに平和に暮らす、みことばをそれぞれに受け止め、自分の糧となりますように。

自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい(9:50)
